

## 学外からの協力・支援

深野 毅（立教大学教務部長付）

2014年度、本学司書課程では、作家上橋菜穂子氏の展示会「上橋菜穂子さんの世界～人とその作品～」を本学図書館で開催しました。私が講座事務室課長の時に、上橋さんの2つのプログラム（展示会・講演会）に関わってきたこともあり、教務部長付に転属した後も本プログラムを担当することになりました。

「この展示会をより良いものにしたい」それはこれに関わる教職員・学生すべての願いでした。

そのためには、展示パネル等を作成し、上橋さんの著書や世界を視覚的メッセージとして発信する必要がありました。

著書を視覚的メッセージに乗せる上では、著書のカバー、すなわち「書影」を掲載することになりますが、この書影は著者にその所有権がなく、書影をそのまま掲載するのであれば各出版社に、書影の絵（作画）のみを掲載するのであればその絵の作者に、それぞれの著作権があります。今回は展示会で書影を用いたパネル等を制作することになり、各著書の出版各社（偕成社、講談社、新潮社、理論社）から、これらの書影等を使用する許諾等を得ることになりました。この作業は、出版社という学外の組織との緊密な連絡と調整が必要となることから、そうしたことを日常的な業務としている私が担当することになりました。

なお当初の企画では、書影のみならず、著書内の挿絵などの掲載も検討されましたが、著作物使用許諾が複雑になることや、「原画」を用いた場合の搬送・保管・展示上のセキュリティ等を考慮した結果、開催までの期間では調整が困難と判断し、書影のみの使用としました。

出版各社では、各社ホームページ等でも紹介されているとおり、書影等の使用については著作物使用許諾の申請手続がありますが、今回は、上橋氏から各社のご担当を紹介していただき、直接調整させていただく手順となりました。本学からは、①開催主旨・内容、②掲載・展示方法、③展示対象者（今回は本学学生教職員に対象を限定した展示）、④本企画が無収益（非営利）であることなどを各社にご説明し、結果として無償での使用をご快諾いただきました。ただし掲載する上では、1）書影のトリミングは行わないこと、2）書影の近くに書名・出版社名・（作画があれば）作画者名を掲載すること、3）完成したパネル等を上橋さんと各出版社に事前にチェックいただくこと、を約束しました。

実際の作業では、このような展示パネルでの書影の取扱いに関するチェックはもとより、書影以外の細部における誤記などのご指摘や、高画質の書影データをご手配いただくなど、各社ご担当には大変ご尽力をいただきました。